

第3回泌尿器抗加齢医学研究会プログラム

2011年7月3日(日) 13:00~16:20

13:00~13:30 (講演 25分、質疑応答 5分)

『腎臓の若返りは可能か?』

座長: 小川 良雄 (昭和大学医学部泌尿器科学教室教授)

講師: 古家 大祐 (金沢医科大学糖尿病・内分泌内科教授)

近年、高齢化ならびに肥満患者の増加を背景とした慢性腎臓病を有する患者数の増加が臨床における問題の一つとなっている。我々は、加齢マウスの腎臓は腎機能異常と繊維化など組織学的変異を来たすが、カロリー制限によってそれら異常が改善されることを見出した。その分子機構を抗老化分子 SIRT1 との関連から検討したところ、カロリー制限によって SIRT1 依存性に老化腎におけるオートファジー(自己消化)が増強されることが見出された。加齢によって生じる腎障害には異常な形態のミトコンドリア蓄積が生じるが、カロリー制限によるそれら浄化が腎保護効果を発揮することが示唆された。SIRT1 によるミトコンドリア制御による組織の若返りは、老化疾患に対する新たな治療手段になるものと期待している。

13:30~14:00 (講演 25分、質疑応答 5分)

『ガン治療へのアンチエイジングアプローチ』

座長: 岡田 弘 (獨協医科大学越谷病院泌尿器科教授)

講師: 澤登 雅一 (三番町ごきげんクリニック院長)

近年のゲノム科学の進歩によって、さまざまな疾患の治療、特にがんの治療は新しい局面に入った。従来の、がんの組織型、部位、進行度によって適応や治療法が決まるという画一的なアプローチから、個々のがんで生じている遺伝子異常や変異、遺伝子発現の変化などの遺伝子情報を参照して診断や治療が行われる個別化治療の時代へと近づいている。個別化治療の主体となる治療一つに、DNAメチル化やヒストン修飾による遺伝子発現の制御に働きかける“エピジェネティック”な分子標的治療薬がある。一方、多くの加齢によって起こる疾患にもエピジェネティックな異常の関与が認められている。がんは究極的な老化であり、エピジェネティックなアプローチによるがんのコントロールは、まさにアンチエイジングアプローチであり治療にとどまらず予防としても期待される。

14 : 00~14 : 30 (講演 25 分、質疑応答 5 分)

『LOH 症候群』

座長：松岡 啓 (久留米大学医学部泌尿器科教授)

講師：堀江 重郎 (帝京大学医学部泌尿器科主任教授)

テストステロンは、2次性徴の発現に必須であり、性衝動を促し、精子形成に関与する。成人においては、テストステロンは筋肉の量と強度を保つのに必要であり、また内臓脂肪を減らし、造血作用を持ち、また性欲を起す。一方テストステロン値が低いとインスリン感受性が悪く、メタボリック症候群になりやすく、また性機能、認知機能、気分障害、内臓脂肪の増加、筋肉量の減少、貧血、骨密度の減少を生じ、男性の QOL を著しく低下させることが解明されてきた。さらにテストステロンは集中力やリスクを取る判断をすることなどの高次精神機能にも関係することが注目されている。

最近、中高年男性が訴える不定愁訴が、男性更年期障害として捉えられるようになってきた。男性更年期障害の典型的な症候は、性欲や性機能の減退、疲労感、抑うつ気分、内臓脂肪の増加、睡眠障害、筋肉量及び筋力の低下であり、男性の QOL を著しく低下する。男性更年期障害の原因として、加齢やストレスなどによる性腺機能の低下が考えられている。この加齢に伴う性腺機能低下は *late onset hypogonadism* を縮めた LOH 症候群という新しい疾患概念として認識されるようになった。テストステロン値は、生活習慣病に関係する疾患バイオマーカーであり、LOH 症候群は、すべての原因の死亡リスク、心血管疾患死亡、癌死亡が増加することが最近報告されている。テストステロンの生理作用と LOH 症候群の疫学・診断・治療について報告する。

14 : 30~14 : 50 休憩

14 : 50~15 : 20 (講演 25 分、質疑応答 5 分)

『オトコのメンテナンス～しゃせいの勧め～』

座長：颯川 晋 (東京慈恵会医科大学泌尿器科学講座教授)

講師：永井 敦 (川崎医科大学泌尿器科学教室教授)

アンチエイジングに努めることは男性性機能の維持に重要である。逆に勃起・射精を維持し続けることも男性の抗加齢に有用であると考えられる。健常者の射精時には前立腺内の血流が増加し、前立腺の律動的な収縮運動が認められる。一方、射精異常のある症例では、前立腺内血流の低下や収縮不全を認める。今回、射精がヒトに与える影響を、筆者のデータや文献をもとに考察し、射精が男性性機能のメンテナンスに有用であることを示す。

15：20～15：50（講演 25 分、質疑応答 5 分）

『オトコの見た目のアンチエイジング』

座長：井手 久満（帝京大学医学部泌尿器科准教授）

講師：山下 理絵（湘南鎌倉総合病院形成外科部長）

15：50～16：20（講演 25 分、質疑応答 5 分）

『オトコの漢方』

座長：大家 基嗣（慶應義塾大学医学部泌尿器科学教室教授）

講師：渡辺 賢治（慶應義塾大学医学部漢方医学診療部長・准教授）

漢方というと更年期障害、月経困難症、月経前症候群など女性のためのもの、というイメージがある。しかし、前立腺肥大に伴う夜間尿、男性更年期に伴う動悸 など、男性の味方でもある。特に加齢に伴う種々の症状は「腎虚」と呼ばれ、排尿障害のみならず、腰痛、耳鳴りなど複合的な変化を伴う。この腎を補うのが八味腎気丸（八味地黄丸）、牛車腎気丸に代表される薬方である。その他明日から使えるオトコの漢方につき述べたい。